

# めぐみイエス・キリスト教会

2022年7月24日(日) 第四主日礼拝  
週報「通算第618号」



## 2022年標題聖句

### 第 I テモテへの手紙御6章17節～19節

《高慢にならず、頼りにならない富にではなく、むしろ、私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませて下さる神に望みを置き、善を行ない、立派な行ないに富み、惜しみなく施し、喜んで分け与え、来たるべき世において立派な土台となるものを自分自身のために蓄え、まことのいのちを得るように命じなさい。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実  
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

## ◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】		
【賛美Ⅰ】	新聖歌268「御国の心地す」	p. 422
【交読文】	No.21 詩篇第62篇(抜粋)	p. 895
【賛美Ⅱ】	新聖歌340「救い主イエスと」	p. 540
【使徒信条】		
【主の祈り】		
【先週説教】		
【賛美Ⅲ】	オリジナル曲No.15「野に咲く花も空の鳥も」	
【聖書朗読】	使徒の働き18章12節～18節(新約p. 272下段)	
【礼拝説教】	《コリント伝道の終わり》	
【聖餐式】		
【賛美Ⅳ】	新聖歌165「栄光イエスにあれ」	p. 235
【平和祈り】		
【頌 栄】	新聖歌63 「父・御子・御霊の」	p. 85
【祝祷後奏】		

### ※本日の聖書箇所(使徒の働き18章12節～18節)

18:12 ところが、ガリオがアカイアの地方総督であった時、ユダヤ人たちは一斉にパウロに反抗して立ち上がり、彼を法廷に引いて行って、

18:13 「この人は、律法に反するやり方で神を拝むよう、人々をそそのかしています」と言った。

18:14 パウロが口を開こうとすると、ガリオはユダヤ人に向かって言った。「ユダヤ人の諸君。不正な行為や悪質な犯罪のことであれば、私は当然あなたがたの訴えを取り上げるが、

18:15 言葉や名称やあなたがたの律法に関する問題であれば、自分たちで解決するがよい。私はそのようなことの裁判官になりたくはない。」

18:16 そうして彼らを法廷から追い出した。

18:17 そこで皆は会堂司ソステネを捕らえ、法廷の前で打ちたたいた。ガリオは、そのようなことは少しも気にしなかった。

18:18 パウロは、なおしばらく滞在してから、兄弟たちに別れを告げて、シリアへ向けて船で出発した。プリスキラとアキラも同行した。パウロは誓願を立てていたので、ケンクレアで髪を剃った。

### ●ポイント1.「地方総督ガリオ」とは？

■ガリオ 本名ルキウス・ユニウス・アンナエウス・ガリオ。修辞学者M・アンナエウス・セネカの息子であり、哲学者ルキウス・セネカ(皇帝ネロの家庭教師)の兄で、後にローマの富裕なガリオ家の養子となった人物。ローマの高官。紀元51年から52年に、アカヤ州の地方総督となりコリントに滞在する。しかし彼はアカヤの気候のために健康を害し、ローマに戻った。

### ●ポイント2.「ソステネ」とは？

#### ※第 I コリント1章1節～2節「エペソからの手紙」 (新約p.326上段)

1:1 神のみ心によりキリスト・イエスの使徒として召されたパウロと、兄弟ソステネから、

1:2 コリントにある神の教会へ。

■ソステネ コリントの会堂管理者。先にキリスト者となってやめさせられたクリスポの後継者。ユダヤ人たちがパウロを総督ガリオに訴えた時、ソステネもそれに加わっていた。同じ名前が、第 I コリントの差出人の一人として出てくるが、ソステネという名は珍しく、同一人物の可能性は非常に高い。もしそうであるならば、ソステネは上述の事件の後に、クリスポの後を追って回心し、パウロと共にエペソに赴いたことになる。

### ●ポイント3.「主イエスの約束」と「パウロの誓願」とは？

#### ※使徒の働き18章9節～10節「主イエスの幻から」 (新約p.272上段)

18:9 ある夜、主は幻によってパウロに言われた。「恐れないうで、語り続けなさい。黙ってはいけません。

18:10 私があなたと共にいるので、あなたを襲って危害を加える者はいない。この町には、私の民がたくさんいるのだから。」

## ◎先週の礼拝メッセージの概要【この町には私の民が】

《コリントにやって来たパウロは、天幕造りの同業者、プリスキラとアキラ夫婦と出会います。パウロは、二人の家で働きながら、シラスとテモテの到着を待っていました。そして安息日ごとに、ユダヤ人の会堂において、主イエスこそキリストであることを証したのです。しかし、ユダヤ人たちは反抗し、ののしったので、出て行く決心をし、衣のちりを振り払いました。「あなたがたの血は、あなたがたの頭上に降りかけられ。私には責任がない。今から私は異邦人の所に行く」と。そして、何と面白いことに、会堂を出て、隣のティティオ・ユストという、神を敬う人の家に行ったのです。すでにこの人物は救われていたのです。

また、会堂管理人の一人であったクリスポは、パウロの語る言葉に心打たれていましたが、他のユダヤ人の手前、なかなか信仰を表明することが出来ませんでした。しかしパウロがティティオ・ユストの家に行ったので、ユダヤ人たちの目を盗んで、家族全員でその家に行き、全員が救われ、パウロから洗礼を授けられたのです。

さて、そんなある夜の事です。パウロがユダヤ人を恐れて、コリントを離れる決心をした時に、主は夢を通してパウロに幻を与えました。「恐れなくて、語り続けなさい。黙ってはいけません。私があなたと共にいるので、あなたに危害を加える者はいません。この町には私の民がたくさんいるのだから」と。もし、この幻が与えられなかったとしたら、パウロはシラスとテモテを伴って、コリントを出て行ったに違いありません。また、コリント教会も誕生しませんし、二通の手紙も書かれることはなかったのです。列王記には、エリヤが、アハブ王とその妻イザベルを恐れて、逃げ出したことが書かれています。エリヤは、自分一人だけが残された、と神に主張しましたが、神は「私はイスラエルの中に七千人を残している」と言われたのです。今も残された者がいます。》

## ◎お知らせ

※7月31日(日)の第五主日礼拝は、通常通り午前10時から、特別メッセージとなります。